

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p style="text-align: center;"><b>教 科 指 導</b></p>	<p>1 分かる授業を行うため、習熟度別学習や少人数学習を実施します。</p> <p>(1) 数学は、2・3年生で習熟度別及び少人数学習を、英語では、各学年で少人数学習を実施します。</p> <p>(2) 定期テストとは別に、宿題テスト、校内実力テスト等を実施します。</p> <p>(3) 宿題などの提出が出来ない生徒に居残り指導を実施します。</p>	<p>1</p> <p>(1) 実施した。(達成)</p> <p>(2) 計画どおり実施した。(達成)</p> <p>(3) 実施した。(達成)</p>	<p>1</p> <p>(1) 習熟度別学習、少人数学習については、例年どおり実施し、生徒へのきめ細やかな対応を行ったが、学力層全てに対する「分かる授業」への取組方法等に課題が残る。アクティブラーニングに係る研修を行い一定の理解を得られたが、実行には時間を要する。</p> <p>(2) 教員が大学入試を分析し、各学年のそれぞれの段階において生徒がつけるべき学力を問う校内実力テストを実施している。教科数も増え、生徒の学力向上、教員の問題作成・検討につながるよい機会になった。試験内容の精査が今後の課題である。</p> <p>(3) 課題等の未提出者に対するものと、基礎学力等の定着に向けた補講的な指導の区別や方法が曖昧。目的は提出させ、学習習慣等の定着が図れるようになること。学力下位層への手立ても課題。</p>
	<p>2 シラバスの一層の充実と活用を行い、学習内容・ねらい・評価方法の明確化により、学習意欲の向上と効率化を図ります。</p>	<p>2 計画どおり作成した。(達成)</p>	<p>2 シラバスは例年作成しているが、生徒が充分活用できるものになっていない。生徒が活用でき、且つ先生方も指導指針(進度やテスト範囲)として引き継げるようなシラバス作成が今後の課題である。</p>
	<p>3 公開授業を実施し、外部の声を授業改善に生かします。</p>	<p>3 計画どおり実施した。(達成)</p>	<p>3 5月10日(土)に授業公開を行い、201名の保護者等に参観いただいたが、意見等が少なかった(回収61)。2回目の授業公開週間は、訪問者は21名と少なかったものの、学校関係者評価委員(奈良教育大赤沢准教授)から授業に対する講評をいただき、授業改善に向けて今後の参考となった。アンケート等の意見を吸い上げる方法等に課題が残るため、生徒による「授業アンケート」を提案。先生自らが改善できるようなしくみを加えた。ただ実施は任意であるため、取組方は今後の課題である。</p>
	<p>4 授業時間数を確保します。</p> <p>(1) チャイムと同時に授業を開始します。</p> <p>(2) 曜日による実質授業時間数に偏りが生じないように、曜日変更等を行います。</p>	<p>4</p> <p>(1) ほぼ実施した。(達成)</p> <p>(2) 曜日変更等を行い、曜日間の授業時間数の差に対応した。(達成)</p>	<p>4</p> <p>(1) 先生方は休み時間の内から教室に入り準備をしており、時間の有効活用に対する取り組み姿勢は充分評価できる。</p> <p>(2) 授業時間数については、曜日変更など様々な取組を行い、その確保に努めた。ただ、年間授業時数を年度当初に職員に伝えておらず、時間調整も学期毎であるため、年間計画や学期毎の計画を立てやすくするよう配慮が必要である。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<b>教科指導</b>	5 授業中心の学習サイクルを確立するとともに、家庭での学習時間を確保するように指導します。	5 学年により取組方法は異なるが指導している。(達成)	5 学習手帳等の活用による指導は一定の評価ができる。クラブ活動との両立、また学習への意欲向上に資する取組は、「総合的な学習の時間」の活用を含め、今後も継続して研究、協議する必要がある。
<b>進路指導</b>	<p>1 全学年各学期に1回の面談期間を実施し、生徒の高校生活の状況や進路希望の把握に努めます</p> <p>2 「ようこそ先輩」(社会人OBの講話)、外部講師による講演会、卒業生の体験談を聞く会、オープンキャンパスへの参加指導、津西一日総合大学を引き続き実施し、生徒のキャリア教育を充実させます。</p> <p>3 早朝課外、放課後課外、土曜課外及び長期休業中の課外を引き続き実施します。</p> <p>4 進路だよりを充実し、生徒のやる気を引き出します。</p> <p>5 進路研修会を開催し、生徒の進路希望について職員の共通理解を図ります。</p> <p>6 国公立大合格者数を現役150名以上にします。</p>	<p>1 実施した。(達成)</p> <p>2 関係者の協力をいただき、計画どおり実施した。(達成)</p> <p>3 設定した各課外講座については計画どおり実施した。(達成)</p> <p>4 1年生に4回、2年生6回、3年生8回発行した。(2月末現在)(達成)</p> <p>5 実施した。(達成)</p> <p>6 年度末集計予定</p>	<p>1 面談を通して、進路相談のみならず、いじめや体罰の問題、生徒個々の悩み等を把握してきたが、充分把握しきれなかったところも散見された。担任以外からの情報集約も含め、組織的に生徒状況を把握できる組織構築に課題がある。また保護者との連携、意思疎通等に関しても意識のズレという課題がある。</p> <p>2 1年生対象の「ようこそ先輩」では、各方面で活躍する本校OBがその職につくまでの経過やその仕事内容を、また2年生対象の「津西一日総合大学」では8大学15人の先生方に大学の講義を経験させていただき、段階を追った生徒のキャリア教育の一助となった。今後は一過性の行事に陥らないよう、その前後の学習を通して、継続したキャリア教育を構築することが課題である。</p> <p>3 課外授業については、保護者アンケートにおいても高い評価を得ており、先生方の真摯な取組は充分評価できる。ただ、「全体の学力向上」に向けた課外授業の対象、内容、時期等に課題もあり、今後検討する必要がある。</p> <p>4 情報提供の一つとしての機能は果たしている。進路だよりを含め、生徒・保護者に向けた情報提供の充実が今後の課題である。</p> <p>5 個々の生徒について、より良い進路指導ができるよう協議した。課題は研修会参加者以外への情報提供と作戦会議に至るまでの進路指導計画の共有。</p> <p>6 「津西高校指導ガイドライン」を策定。これまでの課題をふまえて初期指導を中心とした一貫した進路指導案を策定。来年度より試行しながら改定を加える。</p> <p>先進校視察(県立長崎西・長崎東)を実施。報告会も行い、進学校の取り組み事例を共有し、活かそうとしている。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
生徒指導	1 常に津西高校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てます。	1 実施した。(達成)	1 「自学・自習・自主・自律」の理念のもと、学校全体で健全な心身と豊かな人間性を持つ人材の育成に努めた。
	2 地震や津波など自然災害に対し、適切な行動のできる生徒を育てます。	2 地震については避難訓練、津波に対しても本校の危機管理マニュアルに基づき指導している。	2 避難訓練が画一的になっている。また津波に対して、マニュアルはあっても訓練を行っていない。実際にその場面に遭遇した時適切な行動がとれるかどうか不明な部分が多く、より指導を重ねていく必要がある。
	3 校門指導等により、遅刻の防止とあいさつ指導を徹底します。	3 年間を通じて実施した。(達成)	3 校門指導等は継続して実施し、挨拶についてはもう少し徹底したい。遅刻件数はここ数年間減少を続けており、年間10回を超える生徒が0となった。
	4 部活動や文化講演会、図書館講座等を通じて豊かな人間性の育成を図ります。	4 実施した。(達成)	4 文化的行事として音楽鑑賞会を行った。図書館では、文化講演会に140名、サロンドライブラリーに97名参加した。また、2回目のビブリオバトルを実施、8名の生徒が発表し、63人の生徒が参加した。ビブリオバトルの全国大会に出場する生徒が出るなど、成果が顕れてきた。また、部活動の加入率も80%以上と高く、学習と部活動の両立を図りながら、人間性の育成に繋がった。
	5 安全で清潔な環境のもとで学校生活を送れるよう努力します。	5 いじめ・体罰調査。清掃活動の徹底・エコ活動への取組・健康問題の周知。生徒指導講話・不審者情報の迅速な伝達・関係機関との連携、登校指導等を実施した。(達成)	5 校内で生徒が伸び伸びと活動できる体制は整っている。ただ、いじめ調査などに加え、日々生徒の変化を見逃さない取組、組織作りは急務である。清掃に関しても掃除時間の確保等の課題があり、保護者アンケートから「WCが汚い」などの意見をいただいている。登下校時の安全確保には警察や地域等との連携が課題である。来年度より一斉メールシステムを導入するため、迅速な情報提供については改善できる。また、スマートフォン等に係る使用方法や情報管理は喫緊の課題である。
	6 自転車通学生が多い現状を踏まえ、交通安全に努めます。 (1) あらゆる機会を捉え、自転車の乗車マナーを徹底します。  (2) 自転車点検を年間1回、自転車のステッカー点検を年間2回実施します。	6 (1) 乗車マナーについては、あらゆる機会を通して指導した。(達成)  (2) 計画どおり実施した。(達成)	6 (1) 職員による校門や西団地交差点での指導等を年間通じて登下校時に行うことができた。しかし、地域から自転車並列運転や無灯火運転などの指摘がある。自転車事故の件数は微減したが、事故は起きており、交通マナーをしっかりと守らせるよう講話等や日々の登下校指導を継続していく必要がある。  (2) 7月に自転車点検を、7月と3月にステッカー点検を実施した。結果として、ステッカーが貼ってあるために、盗難にあっても、放置自転車として連絡があり見つかるケースがあった。 校外での自転車盗難が増加しており、ツーロック等についても指導を徹底させていきたい。

<p style="text-align: center;"><b>生徒指導</b></p>	<p>(3) P T A、地域社会及び各関係機関と連携し、通学路の点検及び改善に努力します。</p> <p>7 人権学習に積極的に取り組みます。</p>	<p>(3) 実施した。(達成)</p> <p>7 計画どおり実施した。(達成)</p>	<p>(3) P T Aや地域とのより緊密な連携が今後の課題である。</p> <p>7 人権総合学習を実施するにあたり関連機関とも十分な連携をとりながら、事前学習・事後学習も含め積極的に取り組むことができ、生徒の人権意識の向上を促すことができた。      今後は教員の人権教育に係る資質向上が課題であり、また今後取組が本格化する「道徳教育」との関係も精査していく必要がある。</p>
<p style="text-align: center;"><b>S P P</b></p>	<p>1 過去6年間のS S H事業の成果を継続、発展させるため、将来理系で活躍できる人材を育成していく一環として、S P P事業への取組を学校全体で推進していきます。</p> <p>(1) 三重大学との連携を強化して研究を推進するとともに、地域の小・中学校との連携も行います。</p> <p>(2) 生徒の希望に応じたコース別実習の実施、記念講演会を実施します。</p> <p>(3) 今年度の事業成果を踏まえ、より発展させた特色あるS P P事業を計画・申請することで事業を継続すると共に、事業の成果を発信していきます。</p>	<p>1 計画どおり実施したが、国際科学科のみの実施であり、学校全体への推進にまで至らなかった。(未達成)</p> <p>(1) 計画どおり実施したが、地域の中学校との連携はとれなかった。(未達成)</p> <p>(2) 計画どおり実施した。(達成)</p> <p>(3) S P P事業の指定が外れたが内容は実施</p>	<p>1 S P P事業としては指定から外れたが、中谷財団の援助を受け昨年とほぼ同じ内容で実施することができた。事業の中の取組や講演会、発表等を通して科学に関する興味関心を向上させることができ、理系選択者も例年通りとなった。</p> <p>(1) 三重大学工学部の協力をいただき、大学と連携して事業を推進している。また、地域の2小学校でサイエンスセミナーを行った。生徒は生き生きと取り組み、科学に対する興味関心に加え、プレゼン能力の育成にも繋がった。中学校との連携については今後の課題であるが、次年度は2校の連携中学校を指定。内容詳細は来年度であるが、改善を図ることができた。</p> <p>(2) 10月に本校で生徒全員対象のS P P記念講演会を実施した。また、国際科学科1年生は、コース別実習を実施し、12月にはそれぞれのグループによる発表会を開催した。</p> <p>(3) 次年度は、S P P事業の応募が停止となったが、本年度と同様の事業は実施する予定。また中谷財団からの支援も継続する予定であるため、内容の拡充等を含め本校の看板となるような事業となるようにしたい。      課題としては、事業対象が国際科学科1年生に限られているため、国際科学科の2学年以降の継続性や、また普通科の生徒に対する参加、取り組みを推進する必要がある。      加えて成果の発信(発表会)の方法等にも改善の余地がある。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織力の向上	1 生徒、保護者、教職員などへのアンケートを実施、分析し今後の改善を図ります。	1 計画どおり実施した。 (達成)	1 生徒には高校生活意識・満足度調査を、保護者には保護者アンケートを実施し、多数の回答をいただいた。意見を受けて、職員に集約を周知し、改善できるところを提案した。 また要望の多かった台風時等での緊急連絡については、来年度から「きずなネットシステム」の導入を決定し、4月から稼働予定である。
	2 中学校(生)への積極的広報を行います。また、学校説明会を充実し、参加者数1000名以上を達成します。	2 計画どおり実施した。 (達成)	2 広報活動の一環としてスクールガイドの全面改定、プレゼンPの改訂、年末にはポスターカレンダーを配付し広報活動の改善に努めた。中学校訪問では、市内等の全中学校を2～3回訪問。主要な塾にも訪問した。学校説明会は内容も刷新し、大変好評を得た。(参加生徒数は昨年度より150名ほど少ない1007名。)学校見学会では、授業見学を加え本校の情報発信として有用であった。(参加生徒数は昨年度より50名ほど多い1205名) 学校説明会、見学会とも人数以上の広報効果があったと思われる。
	3 ホームページを充実し、情報の更新と魅力化に努め、1日のアクセス数を120件以上にします。	3 アクセス数は1日平均約____件であった。	3 ホームページは、保護者アンケート等では賛否両論あるが、より分かりやすく、情報の取り出しやすいものへの充実を図る必要はある。次年度に向けた改善課題である。
	4 会議や学校行事等の精選を行い、総勤務時間縮減を図り教員が、生徒と向かい合う時間を確保する等、教職員のやりがいを高めます。	4 会議は増加傾向。総勤務時間は横ばい。(未達成)	4 17時前から開始する会議が何回もあり、会議の設定日、時間に課題が残る。過重労働の職員数が増えるなど総勤務時間の縮減には至らなかった。「定時退校 week」は、一定の成果があった。
	5 各教職員が広く知識やスキルを習得するため、研修会に積極的に参加できる、働きやすい職場環境づくりに努めます。	5 参加機会の保証を行ったが充分ではない。(未達成)	5 より一層の計画的な研修機会を整える必要がある。これには日常業務の精選やクラブ活動とも関連するため、これらを含めた改善が課題となる。  * 教科会等による学年を越えた一貫性、組織力が不十分である。学年団の結束力は強いが、学年を越えた縦のつながり、また教科間の連携態勢が弱い。発展的な継続等が難しい。  * 昨年度の組織状態の弱みである「学校行事の精選や調整する組織が必要」等により、本年度「修学旅行等学校行事検討委員会」を発足した。修学旅行の検討を学年からこの委員会へ移行、その他の行事に関する課題も検討する。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長から教職員に面談等の対話を軸として、本校の目指す方向（ビジョン）が明確に分かりやすく示されており、共通理解ができている。</li> <li>2 「津西高校指導ガイドライン」の策定等を通し、学年主体の進路指導から学校全体として組織的な進路指導への変換を図ろうとしており、改革に向けた風土が整いつつある。</li> <li>3 面談、高校生活意識・満足度調査、教科指導、部活動等を通じて、生徒の要望や期待する内容を具体的に把握している。また、いじめ・体罰等の調査についても、迅速的確に対応しようとしている。</li> <li>4 各校務分掌・学年で立案された年間計画がどのように実施・展開されたかを確認する機会（分掌・学年の反省）を持ち、全体で議論し共有する場を持っている。</li> <li>5 教員が生徒一人一人に対し、丁寧な指導をしており、また対応する生徒の状態が良く、生徒の満足度調査、保護者アンケートにおいても学校に対する満足度が高い。</li> </ol>
弱 み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の組織全体の能力を高めるため、学年・教科・分掌の枠を超えた連携、改善点を次年度へ円滑に引き継げる体制が充分ではない。</li> <li>2 個々の職員の業務量が多いため、生徒とのコミュニケーションの機会や研修会の時間を確保することが難しい。</li> <li>3 各種アンケート結果について、全体での共有はできているが、重点を絞り込み、優先順位をつけるなど改善活動を円滑におこなうためのしくみが必要である。</li> <li>4 高い能力を持った生徒を十分に伸ばしていないとの指摘もあり、また目標達成（国公立現役 150 名以上）に向けた取り組みが、先生個々の力量や該当学年に委ねられる傾向があり、組織的な取り組みとして充分ではない。</li> </ol>

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
〈実施回数〉 2回	
実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営の改革方針について</li> <li>・各種アンケート結果について</li> <li>・授業見学・行事見学の感想等について</li> <li>・学校自己評価について</li> </ul>

#### (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の独自性としての課外解決型学習や協働学習、グループ学習の取組。</li><li>・生徒による「授業アンケート」を通じた前向きなニーズの掘り起こし。</li><li>・「よりよい学校にする」という先生方のモチベーションを上げ、その姿を生徒に示しアピールすること。</li><li>・進路実績が本校の生命線。旧帝大系国公立、私立大の有名校がアピールになる。</li><li>・国際科学科と普通科との区別化が、生徒の中に棲み分けをつくり出している。（例／合格体験記の表装・「普通科も頑張っている…」） 普通科の活性化が必要。</li></ul>

#### (5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"><li>・「津西高校指導ガイドライン」の実行による進路目標達成に向けた取組を組織的に推進する。<ul style="list-style-type: none"><li>初期指導（オリエンテーションの実施）</li><li>個人面談等の充実</li><li>普通科の活性化等</li></ul></li><li>・授業改善の推進<ul style="list-style-type: none"><li>アクティブラーニング等の研修</li><li>授業アンケートの活用</li></ul></li></ul>